

やまぎん

# アジアニュース

2020年1月

●釜山支店☎010-82-51-462-3281 ●青島支店☎010-86-532-85766222 ●大連支店☎010-86-411-83705288  
●香港駐在員事務所☎010-852-2521-7194



## 【青島支店】

### 中国における日本旅行事情

#### 1. はじめに

中国の大型連休には春節（旧正月）、国慶節（建国記念日）があります。家族や親戚との時間を大切にする中国人は、春節に故郷へ帰省する傾向が強いため、インバウンド業界にとって最大の繁盛期は国慶節になります。

中国の大手ネット旅行サイト「携程（シートリップ）」によると、2019年の国慶節では休暇期間中に約8億人の中国人が旅行し、海外旅行をした人は約700万人となり、人気旅行先ランキングでは日本がタイを抜いてトップに立ちました。このように中国人の海外旅行者数は年々増加しており、2018年の年間海外旅行者数は約1.5億人とされています。

#### 2. ビザ取得の必要性

様々な国へ観光ビザ無しで行ける日本人と異なり、中国人が日本へ旅行する際には観光ビザを取得する必要があります。一般的に旅行会社を通じたツアーで日本を訪れる際には団体観光ビザ、個人で訪れる際には個人観光ビザの取得が必要です。個人観光ビザについては、申請書類にゴールドカード以上の国際クレジットカード、年収確認資料、資産形成確認資料（不動産証明等）などの「経済力が確認できる書類」が求められ、一般国民にとってはハードルが高いものとなっています。そのため、日本への旅行は旅行会社を通じた団体旅行が一般的です。

中国人の観光ビザ取得の手続きについて、2019年の7月に外務省より新たな発表がありました。内容は、2020年4月からオンライン申請、電子ビザを導入するというものです。従来、日本大使館など窓口への書類提出が必要でしたが、手続きが簡素化されます。また、中国人の観光ビザ取得については、安倍政権によって順次緩和政策が進められており、2019年1月にも訪日リピーターや学生などの観光ビザ取得要件を緩和したことがインバウンド効果の追い風になっています。今後、益々手続きの簡素化や取得要件の緩和により、中国人が海外旅行先に日本を選択する機会も増加することが予想されるため、更なる訪日観光客の増加が期待されます。

### 3. 日本での人気旅行地と目的

中国から日本への旅行は依然として人気があり、日本政府観光局（JNTO）の統計によると、2018年に来日した外国人旅行者は、国別で見ると中国が最も多く約838万人に達しています。中国人が訪れたい国では2017年、2018年に日本が第1位となり、中国人の日本への関心の高さが伺えます。実際、青島支店においても、ほとんどの中国人行員が日本への旅行経験があります。「なぜ家族旅行に日本を選んだのか。」と尋ねると、「日本語がわからなくても漢字でなんとか分かるし、インターネットで色々情報が出ているから調べやすい。」また、「航空機チケットがどんどん安くなっているから。」という答えが返ってきました。

2018年の国・地域別訪日客数

	国・地域	客数(人)	伸率(%、前年同月比)
1位	中国	8,380,034	13.9
2位	韓国	7,538,952	5.6
3位	台湾	4,757,258	4.2
4位	香港	2,207,804	-1.1
5位	米国	1,526,407	11.0
6位	タイ	1,132,160	14.7
7位	豪州	552,440	11.6
8位	フィリピン	503,976	18.8
9位	マレーシア	468,360	6.6
10位	シンガポール	437,280	8.2

出典：日本政府観光局発表のデータを基に著者が作成

日本での旅行先で最も多いのは大阪、次に東京、京都と続いています。青島市内の旅行会社でも聞いてみたところ、やはり1番人気は大阪や東京との回答でした。中国人は旅行に限らず食事や日々の生活でも微信（ウィーチャット）ですぐ発信し、アピールする傾向にあるため、まずは有名な場所や自慢できる場所を選択します。そのため、一般的には初めての日本旅行で選択する場所は大阪や東京などの大都市、次に、中国国内のテレビドラマでも有名になった北海道などを選択します。その他の地方を訪れる中国人旅行者は都市部へは既に旅行経験があり、新たなニーズを求めている人が多いようです。

実際に、青島市内の旅行会社にはこれまでに無かった宮崎県や新潟県、岐阜県など地方の旅行パンフレットが設置されており、リピーターが着実に増加していることが伺えました。本屋においても、日本旅行コーナーには広い陳列があり、大阪や東京だけではなく、様々な場所の旅行ガイドブックが売られています。

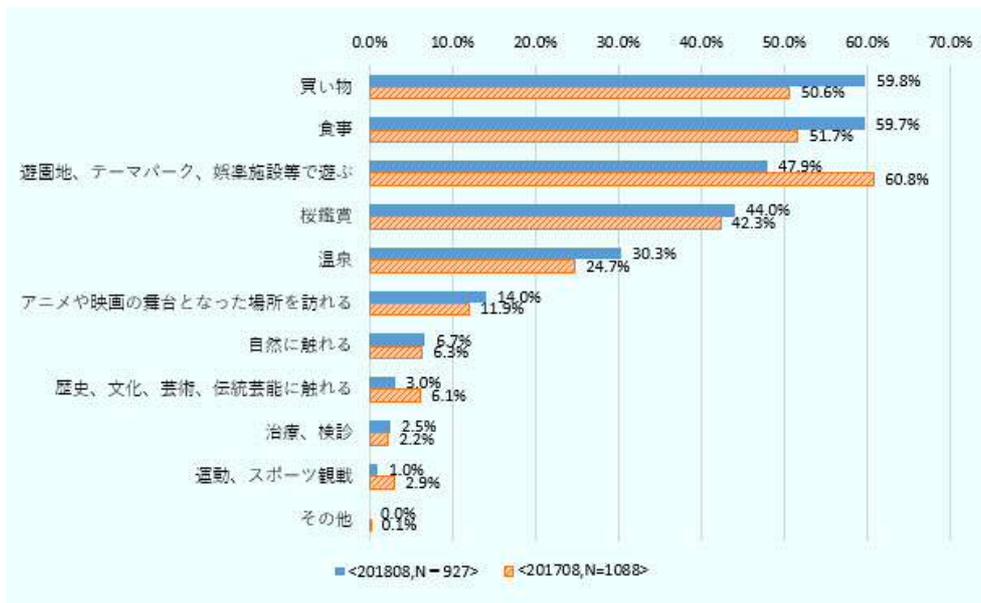


撮影：著者（左図：青島市内の旅行会社備え付けのパムフレット、右図：青島市内の本屋における日本旅行コーナー）

訪日目的で上位を占めるのは、やはり「買い物」や「食事」、「テーマパーク等の娯楽施設」です。しかし、近年の調査では「桜鑑賞」「温泉」などの日本文化の体験や「アニメや映画の舞台となった場所を訪れる」と言った聖地巡礼も人気となっており、物を買うだけでなく、「体験型消費」を目的とする中国人も増加しているとニュース等で取り上げられることも増えてきました。これは、以前の爆買いが落ち着き、越境 EC などの新たなスキームで簡単に日本の商品が買えるようになったことも影響していると考えられます。私達駐在員も、日本より少し高いお金を払えば、日本で使用していた商品を中国でも手に入れることが出来るようになって来ています。

一方、「体験型消費」は、内容が多岐に渡るため地方都市にとってもチャンスがある消費です。豊かな自然や文化資源を持つ地方都市にとっては最大のチャンスであり、今後、日本旅行の新たなトレンドとなる可能性を秘めているのではないのでしょうか。

中国人観光客の訪日目的



出典：ジェトロ「中国の消費者の日本製品等意識調査」

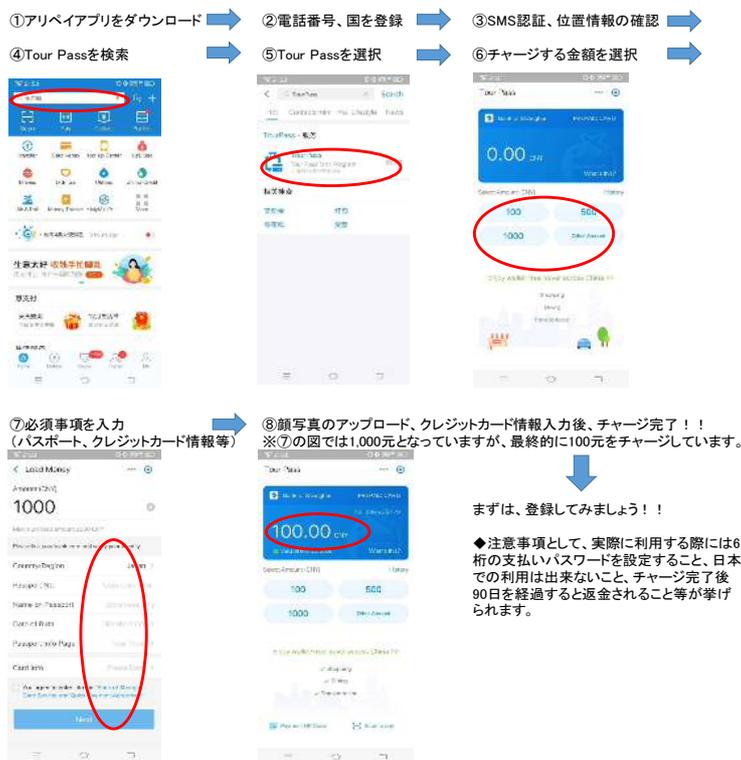
#### 4. アリペイ「ツアーパス」の運用開始について

少し話は変わりますが、中国での決済事情について、私達日本人にとって有益な情報が発表されたので掲載させていただきます。

中国ではモバイル決済が浸透しており、アリババの「支付宝（アリペイ）」とテンセントの「微信支付（ウィーチャットペイ）」が主流となっています。私自身も、買い物や飲食店、公共交通機関の支払いでは主にモバイル決済を利用しており、現金を用いる機会がほとんどありません。コンビニで水を購入することでさえ現金支払いが敬遠されるなど、モバイル決済が標準化しているため、海外旅行者や出張者が中国を訪れる際には不便と感じる場面が多々あると考えられます。実際、今年の11月に青島で開催された山口県と山東省の経済貿易商談会においても、山口県側の参加者からは「コンビニで飲み物を買うために現金を出したら嫌な顔をされた。」「お釣りの現金がないと言われた。」などの話も出ていました。

その様な状況の中でアリペイは、海外旅行者向けの新たなモバイル決済サービスとして「ツアーパス」の運用を2019年11月より開始しました。従来、アリペイでのモバイル決済を利用するには中国の電話番号と銀行口座が必要とされ、海外旅行者には困難なものとなっていました。しかし、「ツアーパス」の利用は、①携帯電話番号（日本のものでも可）②パスポート③クレジットカードの情報により利用出来るため、ハードルが低いものとなっています。実際、私自身も「ツアーパス」の登録を試みましたが、数分で登録は完了しました。大まかな登録の流れについても以下に掲載させていただきますので、中国への旅行、出張をご検討されている方は是非試してみたいはいかがでしょうか。

##### アリペイ「ツアーパス」登録の流れ



著者のスマートフォン画面を基に著者が作成

---

## 5. おわりに

2020年は東京オリンピック、2025年は大阪万博が開催されることから、今後も中国人訪日客が増加していくことが期待されます。また、訪日リピーターの増加は地方にとっても大きなビジネスチャンスとなります。今後、山口県の経済を活性化させるためにも、中国人訪日客の誘致は重要テーマの一つと言えるのではないのでしょうか。

山口銀行青島支店では、海外ビジネス支援のための情報提供、ビジネスマッチング等を実施しています。是非、お気軽にお問合せ下さい。

(山口銀行青島支店 河野 竜治)

### 【参考文献】

人民網日本語版

<http://j.people.com.cn>

JETRO「日本外務省、中国人観光客のビザ申請を電子化へ、インバウンドの追い風に」

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2019/07/689c05e0c7dde55b.html>

在中国日本国大使館 HP

[https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/20190101.html](https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20190101.html)

JETRO「日本に安全・安心のイメージ、行きたい国で2年連続1位に」

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2018/5cb6830f23b9ce08.html>

JETRO「キャッシュレス元年の日本でQRコード決済は普及するか 中国と米国の事例から比較」

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2019/1619a2493a52b0a4.html>

アリババ株式会社 HP

<https://www.alibaba.co.jp/>

トリップアドバイザー「インバウンドレポート2019」

<https://tg.tripadvisor.jp/news/wp-content/uploads/2019/07/InboudReport2019.pdf>